

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真で紹介いたします。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：秋風に揺れる一面のコスモス】

# 文芸

Japanese Poem of 31 syllables  
\*Haiku Poem\*Comic Haiku\*

## 俳句 (ぎんなん俳句会)

虫の音や北辰仰ぐ終の里  
秋澄むや古刹の風に身を置きて  
秋気澄む雨後の山籟切り通し  
もう二度と会えぬ人なり桐一葉  
母と見る今日の月なお美しき  
風残す足跡辿る芒道  
鵬日和やしる見守る夫婦杉  
草の実のこぼれて我が身染まりけり  
のびのびと森の番人男郎花  
朝霧に埋もれし芋の光浴び  
金色の稲穂の海に吞まれけり  
気取らずに生きるも余生蕎麦の花  
落してはまた影拾ふ秋の蝶

富山 達次  
富山 茂子  
和田 千恵子  
北野 治美  
吉村 万里  
目黒 文恵  
本村 光子  
北川 雨水  
刀坂由美子  
堂園 悦子  
今井 洋子  
川上 豊  
和田 洋文

## 短歌 (松山南船短歌会)

六人の子ら育てあげ旅歩き花にめぐりて花咲かせをり義妹  
通ひ路をけむる驟雨にテールライト見えかくれする夕の幻  
秋晴れとなるも赤トンボの姿なく異常気象に幼虫も死にたるや  
台風さり集団登校生徒らにはおはようの声一だんと明るく  
吹き出づる鮮血のごと鉢植のブーゲンビリアいま盛りなり  
車窓には行けどもゆけども白く咲くりんごの花の林続けり  
右も左も家並み消えて杭打たれいずれば成るか高速道路  
夜も更けて仕事終わりし庭先にわれを待ちしか蛩とび交う  
朝早くエンジンの音ひびかせて翁は草刈る厳しき土手を  
青空が水面に写る早苗田は苗と平行に足跡くつきり  
裏庭の藪をかき分け紫陽花が大輪揃いの花で占めたり  
道端に三本も咲きたんぽぽに踏みたるを詫びしやがみて直す  
麻痺残る息子の身体さすりつつ老母ぼんやり遠き目をする  
刺すような直射日光に目をつむるありがたき陽ににが笑いして

畑 美佐子  
前原 恭  
永田ミツエ  
隈元 千エ  
石橋 道子  
野口 順子  
川添八重子  
吉元ミチ子  
中島 昭  
大迫 鈴子  
山口 カツ  
藤田ミチ子  
高倉 律子  
池田 奈々

## さつま狂句 (有明町さつま狂句同好会)

雑吟 俺よつか 犬の方が高け 病院代

小蓬原 忠則

〔評〕「動物愛護」の精神が高揚し、犬猫など共に家族の一員である。いざ病気で患うものなら即刻動物病院へ。だが勘定となると何と飼い主の医療費より高額。滑稽だが真実味を感じる。

兼題 「福」 食が福つち 言どん我が家は 飯と汁

丸目 南兵衛

〔評〕「食にありつけた」と言えば大げさだが、日常存分に食べられると幸せを感じる。だが我が家は世にいう肉など一片のサーブिसもない粗食。これでは爺といえども腹が収まるまい。

雑吟 少す鎮だ お喋い周開や 心配をえつ

畑山 敏昭

〔評〕小さなグループにも一人や二人のお喋りさんはいるものだ。その彼が今日は何故か口を噤んで沈痛な表情。さて不機嫌か、または病気なのか。周開が心配し目配せして彼の心情を慮る。